

令和 8 年度 第 1 回大宮駅東口駅前賑わい拠点まちづくり懇話会  
事例視察 質疑応答 議事録

## 1. 概要

日 時：令和 8 年 6 月 30 日（火）8:50～17:30

視察先：1）志木市立志木小学校、いろは遊学館、いろは遊学図書館（10:00～11:00）

2）港区立小中一貫教育校白金の丘学園（14:00～15:00）

3）早稲田大学戸山キャンパス 戸山の丘（15:40～16:00）

## 2. 質疑応答の内容

### （1）志木市立志木小学校、いろは遊学館、いろは遊学図書館

#### ①公民館との複合化により、教育活動の幅が広がった具体的な事例はあるか。

- ・市内で志木小学校の児童だけが体験できる時間として、  
→公共図書館を自在に利用でき、司書職職員から図書館の利用方法について、様々なレクチャーを受けることができます。
- 部屋の相互利用ができることにより、授業の形態に幅ができます。
- 視察に来られた、他自治体の皆様とのふれあい。
- 「命を学ぶ人権講座」など、他の学校では受けられない授業を受けることができます。

#### ②小学校との複合化により、利用者層や活動内容に変化があったか。

- ・利用者層の変化は特に感じません。それは図書館も同様で、志木小学校で 6 年間、図書館に慣れ親しんでも、中学校に進むとピタリと足は図書館に向かなくなります。

#### ③子ども・保護者・地域住民が集う拠点として、相乗効果を感じている点について。

- ・社会教育団体と児童、お互いの学習成果を提供しあうことで、自己肯定感を上げることになります。

#### ④騒音・プライバシー・セキュリティ面で、特に配慮が必要な点について。

- ・開館当初から、学校の始業終業のチャイムは鳴らしていません。

#### ⑤複合化を成功させるために、設計段階・運営段階で特に重要だったポイントについて。

- ・市の防災拠点として機能するものとする。
- ・「合築」ではなく、児童と地域住民の動線が、日常的に交差する空間を設けること。
- ・「学校(特に校長)」「図書館」「公民館」が、同じ方向を向いて取り組むこと。

#### ⑥「やってよかった点」と「事前にもっと検討すべきだった点」について。

- ・視察に来られる方が、初年度から毎年 20 件前後あって、文科省のホームページにも掲載されて、一定の評価を受けていること。ハード面で言うと、公用の駐車場の必要性を感じます。

**⑦今後新たに同様の複合施設を整備する自治体に対して、助言・留意点があれば御教示いただきたい。**

- ・視察を重ねることは、大変参考になると思います。建物は複合できたとして、そこに入る「人」同士を、どう結び付けていくのかがカギになると思います。

**⑧複合化施設として運営されてから、学校と公民館等市民利用施設間での、施設の共有、利用者の交流、管理方法等において、見直しや改善された点があるか。**

- ・細かい変更点がありますが、根幹を成す、「互いが管理しているスペースの相互利用」については変わりません。総合館長を置いていませんので、情報の共有、課題の整理と対応策の検討については、学校長、施設長、学童保育受諾者代表が定期的に話し合いを行っています。

**⑨学校の近くまで住宅地が立地しているが苦情等はないのか。**

- ・児童の声による苦情はないが、遊んでいるボールが民家に入ってしまうことや、砂ぼこりに対する苦情はあり、砂ぼこりに対しては頻繁に散水し発生の抑制を意識しています。

**⑩校庭が北側を向いているがその経緯を教えてください。**

- ・当時は学校敷地の南側は住宅地と接していましたが、北側には住宅が整備されていなかったことから、音や砂ぼこり等による影響を考慮し北側に校庭を配置した経緯があります。しかし、現状では北側も住宅地が配置されている状況にあります。

## **(2) 港区立小中一貫教育校白金の丘学園**

**①体育の授業（運動会・日常の体育・学年別活動等）を行う上で、人工地盤校庭ならではの工夫をされている点は何か。また、球技や運動等、実施が難しい、あるいは制限が生じる活動があれば、その内容について。**

- ・人工芝の人工地盤校庭においては、凹凸が少なく転倒リスクが低いことや、柔らかさにより衝撃が緩和される点、水はけが良く悪天候後でも早期に使用可能である点を活かし、日常の体育や運動会を実施しています。一方、土の校庭と比較して反射が強く、夏季は高温となりやすいため熱中症対策が重要となります。

**②人工地盤校庭の構造上の特徴（厚み、素材、安全対策等）について、設計段階で重視された点は何か。**

- ・人工地盤校庭は、敷地の制約条件の中で運動場面積を確保するため、体育館上部に整備しています。特に近隣環境への影響（砂塵防止）や雨天後の早期利用、維持管理性を考慮し人工芝を採用しています。

**③防音・振動対策について、周辺施設や下部施設への影響はどの程度あるか。**

- ・構造計画においては、屋上利用時の振動や下階への影響に配慮し、スラブ等の構造計画を工夫しています。なお、排水管理においては落葉等による詰まりが発生した事例があり、適切な維持管理が重要です。

**④雨天時・猛暑時・積雪時など、気象条件による使用制限や対策について。**

- ・人工芝は水はけが良好であり、雨天後でも比較的早期に利用可能です。一方で、夏季は表面温度が上昇しやすいため、活動時間の調整等の暑さ対策を行っています。

**⑤人工地盤校庭の日常的な点検・清掃・補修はどのような体制で行っているか。**

- ・日常的な施設管理は、教室等については児童・生徒が清掃し、その他の部分については主事（用務員）が対応しています。樹木管理等の専門的業務は業務委託により実施しています。また、人工芝については保守業務として定期的に目起こしを行っております。

**⑥天然芝・土の校庭と比較した場合の、維持管理コストや手間の違いについて。**

- ・人工芝は、土の校庭と比較して除草や整地の手間が少なく、天候の影響を受けにくい一方、夏季の高温対策などの運用面での配慮が必要です。

**⑦経年劣化（防水層、舗装、ライン等）による課題や更新時期の見通し。**

- ・防水層や舗装等については長期的な維持管理が必要であり、港区においては 20 年を目安に改修や貼り替えを実施しています。また、排水機能の確保（落葉の除去等）が運用上の課題となる場合があります。

**⑧実際に運用してみて、想定外だった維持管理上の問題点があれば。**

- ・運用上の課題として、落葉等による排水不良が発生する場合があります、日常的な点検・清掃の重要性が認識されています。

**⑨日常の施設の安全点検等を行う上で、通常の校庭との違いはどのような点か。**

- ・人工地盤校庭は下階に施設を有するため、通常の校庭以上に排水状況や構造安全性を意識した点検が必要となります。特に落葉や異物による排水機能の低下に留意しています。

**⑩地域への校庭開放は実施しているか。実施している場合、校庭が人工地盤であることによる地域開放上の制約や安全管理上の留意点があるか。**

- ・地域への校庭開放を実施しています。校庭は人工地盤に整備されているため、防球ネットを設置しており、外階段から直接グラウンドへ出入りできる動線を確保しています。利用者が校舎内を通らずに校庭へ出入りできることから、学校運営に大きな影響が生じておらず、安全管理上も一定の配慮がなされています。

**⑪人工地盤の他に、「けやき広場」という名称の校庭を有している点について。別で整備している経緯、使い分け方について。**

- ・人工地盤校庭に加え、低学年向けの自然環境を活かした「けやき広場」を整備しています。これは既存樹木や天然芝を活用し、発達段階に応じた運動・学習環境を確保するためです。

**⑫人工地盤の校庭も、地震等の一次避難場所として使用しているか。また、人工地盤の校庭と地面の校庭を学年ごとの避難先として割り当てるといったことをしているのか。さらに、近隣地域の避難先として当該校庭が指定されているか。**

- ・人工地盤上の校庭も、地震等の際の避難場所として使用しています。校庭と体育館を避難場所として指定しており、避難時には学年別に動線を分けています。高学年は西側の避難階段からグラウンドへ、低学年は東側の避難階段からけやき広場へ避難する運用としており、児童・生徒が一か所に集中しないよう配慮しています。また、近隣地域の避難先としても指定されており、地域の方の避難受入れも想定しています。なお、受入れ可能数には限りがありますが、ペットを伴う避難についても可能としています。

**⑬人工地盤の校庭における暑さ対策について、周囲に樹木や日よけがないため、運動会や授業等での暑さ対策に苦慮するようなことはあるか。**

- ・一般的に校庭は日陰が少なく、人工芝の校庭は、夏季の熱中症対策が必要となります。授業では活動時間の調整を行うとともに、運動会ではテントを設置するなど熱中症対策を実施しています。

**⑭低学年の生活科や理科等、自然環境や学校園のような学習環境を確保するための工夫について。**

- ・自然環境を活用した学習のため、既存樹木や天然芝を活かした「けやき広場」やビオトープ等の屋外空間を整備しています。教室に接してテラスが設けられている階もあり、より身近に生活科や理科での体験的学習の場を確保できます。

**⑮地域の住民の方が利用できるのは、時間外の開放の他は地域ラウンジが中心となるか。地域ラウンジの利用・管理の特徴について（利用者層、利用目的、管理主体等）。**

- ・地域ラウンジはホール横の通路スペースであり、施設開放の対象場所とはなっていません。そのため、特定の利用者層や利用目的を想定した管理運用は行っておらず、独立した地域開放施設としての位置付けではありません。

### **（３）早稲田大学戸山キャンパス**

※施設案内のみであったため、質疑応答等はなし